

日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
中	石	安	由	本	岩	永	鈴	模	村	南
村	堀	初	波	村	月	井	木	尾	上	義
良	正	安	彦	集	久	彦	茂	治	お	馬
之	子	之	名	俊	成	忠	昌	房	上	保
助	色	足	名	俊	成	忠	昌	房	上	保

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

才之有之

之阿曼海内附注

一 日 十 二 時

陸軍曹長字清江漢

此の海軍附小隊

音方

問作新法

橡木龜甲

二六二

香坡畧

第二師及海軍附 茨城縣 駐之

二六五

10
 11
 12
 13
 14
 15

升之師友。海內軍附。在性氣。親之。合。

一、日坊九

陸軍省圖書印

二六

回

榜曰玉真

九生之石

陸軍部

二、改訂

多居大補血

此乃係附於土之石，乃此石之經
 石之石，乃此石之經

何

2

3



中
之
所
在
之
人

卷之四 伊崎光熙

石口流

日海遺集

日
之
泉
之
位

“中一聯”

孝子之雲少姑元

村上 明也

二日 爲に
 三十九

板橋名所中かゝる寺あり

卷之五十四

中
之
友
界
色
之
身
之
身
之

古之所謂忠臣也

長久保河

三日

諸君が御座る

つや

多尾大補

何

日

オラ

オラ

オラ

オラ

オラ

オラ

オラ

オラ

オラ

オラ

望遠に依り起すやと交はるる色は如
お年々糸の如く長き依りて海に渡り
お涙の如くおの

あまの国をけり

九月三日

陸軍中佐堀江幸介

つげり

多摩大浦

之を平定すや起すやと交はるる色は如
お年々糸の如く長き依りて海に渡り
お涙の如くおの

お年々糸の如く長き依りて海に渡り

お年々糸の如く長き依りて海に渡り

お年々糸の如く長き依りて海に渡り

夜給城更及渡御書及後隊長等
書お添付此れお何也

心お添付此れお何也
お添付此れお何也

二枚

何れお添付此れお何也

お添付此れお何也

お添付此れお何也

お添付此れお何也

お添付此れお何也

お添付此れお何也

お添付此れお何也

戊辰

何之

わろろねわ

五十六年所存才之大極矣

唐岩升志

志也。自公議之者，年久矣。陰係
 中二。後得者，年久矣。自十八
 年，入於公。新中，又為城。每有海
 風，入於公。

高麗大佛

是より再役新の爲に成り候に便に
 一より候へども此の事あり候に
 是より候へども此の事あり候に
 是より候へども此の事あり候に
 是より候へども此の事あり候に

和合長春

十室九空

富貴可貴

石其里切況
字乃

山

仙玉清出長江為

四三

カニヲセシム

とちりて

市爲一丈不付

長
福永
德肥

日
常
生
活

第三卷

右三子方満屋

木多郎天保分

兵十才 森生子乙

〃 木二大保分

百長 原祐象

手勢 鈴木重頼

右三子方満屋

右子方満屋(通) 海保丸中本本

森 眞 自

に宛ててはたしめし居る事おぼしめす
かたじけなく
おぼしめす

堀江中一

多田大輔

主面佐と申す教条主と申すは如何に
不才も長年承侍御外七名は御座
内年親事御座り

功三万三千八百

山本介壽

山本介壽

伊藤新規

岩岡繁隆

岩岡繁隆

三平曹 伊藤金孝

三 忠貞之

林 忠哉

順知元貞

西井義則

出立 卯七院 小付

曹長 西井義純

西山廣定

軍曹 福永多沙保

功六 河原後 備軍 多沙保

政年 公 義生

曹長 安富 西忠

卯七 河原 小

陸軍省

石川数正在

書長海生重道

在本年一より本年中に被服後形と名
つけし宛奉安云々如由何如

入由三子也

四桑少将

多尾大將

幸田書長山奉介壽安内正史并一軍書
河原金孝美白と白と宛奉左其
他書長田原祐規外大各に被服宗
向奉宛少御多

才二る以拾九

第以録を以

五
右とそお自天々満初年七月及後
之也日まもホありねとろシハ何せ
五江船とて来ち人々ふりたす
ニテ和船と名に上江船友も用
てし有船と通いなるも事なれ
お何や

おきき国書

おきき日

おきき日

おきき日

おきき日

おきき日

おきき日

日向大

カミヨリニ

陸軍佐長武石定幹

大正陸軍軍官先般おきき

取付候に付申上るに

と兼中と云ふ太色等と

と兼中と云ふ太色等と

九月一日

陸軍佐長武石定幹

功三郎三平

少佐三平三平

取付候に付申上るに

取付候に付申上るに

海軍市港

子部

子部科

曹長十名

軍曹十八名

但長四名

カ子テ

ソノダイソウチヤウニチウニシヒロシマチニダイウキ

カ子テタウレダレトモソノウチ●ヂウニシダニシ

ハチニシダチワカハスズニソノタウニハチワテ

ヲリルニ

カ子テ

カ子テ

野田少将

加多右衛門

大塚

佐々木

平野

佐々木

仙臺

門

手島

佐々木

加多右衛門

壺

壺

壺

孝子國生三科

可書二十名

仕志十名

久上段段主付

可書二十名

久上段段主付

可書二十名

仕志十名

久上段段主付

可書二十名

其其國

徳島県

前記の如くある事、其の如く、
其の如くある事

其の如くある事

其の如くある事

其の如くある事

其の如くある事、其の如くある事、
其の如くある事、其の如くある事、
其の如くある事、其の如くある事、
其の如くある事、其の如くある事、

其の如くある事

曹長佑之長弟

[illegible]

五

陸王傳寫上海版

[illegible]

[illegible]

四月八

此方乃千六号
高玉乃多功十王
改重之通彼臣
汝等亦如也

九多

多格文法

多尾上袖度

何と通 子

此方乃十

曹长 佐伯 怪士 存

少内 光日

少野 丑美

井上 孝

七七

伯璽

神井善次

志
力
少
以
爲

何部通

國
古
之

村秀之

軍勢左田高僧

卷四

高松

完
成

武田秀元

金東坡

中
之
三
十
三

張氏清惠

手肉

位友情也

右堂獄

お仁之殿此後如何

九百九十九

三行書

七

10

五

儀本芳幸
栗村義明
西崎栗二
高原松常
古澤庄太
本田好吉
飯沼桂平

功立方多十八号
 同く海
 海

十号年出仕木原清道
 右廿五月中外系是或
 下るわき降てや

九月

廿五

2

廣治

市志功六碑係

子習政也順良
為長收腫包造

何六媽

意節則佳

方之冲七聯心付

幼長三楊子成

五支本自以中戶次畫之通彼四諸

其者身被名聲反致招怨

三
二
一

四糸子

多子孫大樹後

[illegible]

西千二音海産之品也皆之おひり

字千音

功三音四十一子

お云功三十二大云功三十八

習長字村一親

日大隊功一中係

村井重政

右に來りて之旨定規由に之を交す所成し
而も其に及出れりて本人志情殊深
之を以て其書并一厚巻書に附在
之を以て其書に之を以て其書に之を
以て其書に之を以て其書に之を
以て其書に之を以て其書に之を

九音二音

中法二音

多良土越

何と云ふに土越級形似て空を飛ぶ如く但
其と魚鱗の如く出づ

口を

力と云ふに

此の如く

おまけに

事勢の

昔と云ふに徳義の如く二つありて其の如
く其の如く三つありて其の如く四つあり
て其の如く五つありて其の如く六つあり
て其の如く七つありて其の如く八つあり
て其の如く九つありて其の如く十つあり
て其の如く十一つありて其の如く十二つあり
て其の如く十三つありて其の如く十四つあり
て其の如く十五つありて其の如く十六つあり
て其の如く十七つありて其の如く十八つあり
て其の如く十九つありて其の如く二十つあり
て其の如く二十一つありて其の如く二十二つあり
て其の如く二十三つありて其の如く二十四つあり
て其の如く二十五つありて其の如く二十六つあり
て其の如く二十七つありて其の如く二十八つあり
て其の如く二十九つありて其の如く三十つあり
て其の如く三十一つありて其の如く三十二つあり
て其の如く三十三つありて其の如く三十四つあり
て其の如く三十五つありて其の如く三十六つあり
て其の如く三十七つありて其の如く三十八つあり
て其の如く三十九つありて其の如く四十つあり
て其の如く四十一つありて其の如く四十二つあり
て其の如く四十三つありて其の如く四十四つあり
て其の如く四十五つありて其の如く四十六つあり
て其の如く四十七つありて其の如く四十八つあり
て其の如く四十九つありて其の如く五十つあり
て其の如く五十一つありて其の如く五十二つあり
て其の如く五十三つありて其の如く五十四つあり
て其の如く五十五つありて其の如く五十六つあり
て其の如く五十七つありて其の如く五十八つあり
て其の如く五十九つありて其の如く六十つあり
て其の如く六十一つありて其の如く六十二つあり
て其の如く六十三つありて其の如く六十四つあり
て其の如く六十五つありて其の如く六十六つあり
て其の如く六十七つありて其の如く六十八つあり
て其の如く六十九つありて其の如く七十つあり
て其の如く七十一つありて其の如く七十二つあり
て其の如く七十三つありて其の如く七十四つあり
て其の如く七十五つありて其の如く七十六つあり
て其の如く七十七つありて其の如く七十八つあり
て其の如く七十九つありて其の如く八十つあり
て其の如く八十一つありて其の如く八十二つあり
て其の如く八十三つありて其の如く八十四つあり
て其の如く八十五つありて其の如く八十六つあり
て其の如く八十七つありて其の如く八十八つあり
て其の如く八十九つありて其の如く九十つあり
て其の如く九十一つありて其の如く九十二つあり
て其の如く九十三つありて其の如く九十四つあり
て其の如く九十五つありて其の如く九十六つあり
て其の如く九十七つありて其の如く九十八つあり
て其の如く九十九つありて其の如く百あり

後日

多尾大持

中々

力

此

為

書長村松魁

日

日

お美四多る宣規内形と皮お持と
并は殺出た多る本人多情殊縁と
殺主多る書主直に在りて
上り多る何多る少指押と
三多る

多尾大持

多尾大持

何と云ふに土波良長浪意分才多順
但云々四半に上と云白出

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

何と云ふ

陸軍省

才高年少

四十二

此年、習山、成力

通

此年、徳田、目録

橋本、光美

高田、然一

大橋、龍花

東

二二

古く、有名家、多、此、年、親、授、共、り、免

後、教、出、り、有、明、八、子、七、多、年、功、三、二、号、布

津、三、其、年、三、冬、送、家、移、り、東、河、と、長、年、余

美、波、功、り、有、教、道、中、に、余、現、在、存、在

中、年、以、上、有、お、津、下、也

の、月、大、る、り、年、三、年、一、下

血、素、為

古之

[illegible]

元化之理少時之利野自其然也天不與人出
以要術使彼中一利也遠之中是既之
其安可利也云云下者之利也其上清
以待之云云此二利也云云何之利也規之文
者之利也其利也初出之時方中故有之
之利也此二利也上由上曰之利也三
幸也之利也四之利也五之利也六之利也
七之利也八之利也九之利也十之利也

來友亭

三

沖方平也

[illegible]

山崎の山崎

大山崎

山崎

山崎の山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

6960

7
り
4
3
7
6

100

100

100

[illegible]

1704

陸軍之命

教子圖

長江虎

出立功天心生侍

甲之部

榮池美隣

乙之部

金美土海市

丙之部

日高忠二

宮野重花

翠根美実

池田寿定

岩田友直

中林清規

岡田集

後原元紀

方多功二女孫

甲子部

久晴三者

少望正

中村兼之丞

佐々木淳

少藤川要房

志保能吉中

高望教治中

新約克己

其一葉吉中

大坂二
 海井恒一
 日本定八
 島田考之
 如友典
 菊地規
 毒文之
 松尾吉八
 川是子三
 桑原以
 了利弟七
 谷政
 松井之
 府

山口少三郎
 岩谷良助
 柳本万吉
 多田虎之助
 吉村大吉
 之田保典
 寺谷川五郎
 有本清四郎
 赤尾勝三郎
 須田大清
 寺本健吉
 小宮大五郎
 柳本大五郎

乙
之

半部	魚	白	進	吉	戸	松	佐	早	橘	就	古
杭	任	石	藤	田	田	田	々	阪	谷	野	田
勝	貞	苗	孝	田	重	牛	木	俊	新	一	勝
繁	輝	四	忠	造	九	五	正	之	之	翁	馬
		郎			郎	郎	名	助	助		

加	村	大	柿	鈴	伊	章	田	池	不	渡	柳	今
茂	上	野	寄	木	藤	野	中	田	破	邊	野	
下	猪	伊	丈	保	懋	八	次	淳	昌	春	直	
温	原	原	八	記	吉	吊	太	澄	任	到	吉	信
良	太	太										

星	古	大	高	渥	小	荒	中	池	遠	三	永	大
	賀	谷	須	美	川	木	原	田	藤	村	野	規
新	弥	信	猪	武	忠	茂	卯		宏	幸	席	忠
太	一	道	之	五	一	三	三	寛	藏	清	之	太
郎	郎		松	郎	郎	郎	郎				進	

丙之

志	安	水	部	間	横	高	高	榎	渡	佐	井	清
賀	田	田		山	山	橋	橋	村	辺	多	上	島
義		亀		後	新	原	大	好	富	邦	直	兵
昌	宋	次		八	治	之	太	明	蔵	麻	衛	九
		印				助	郎			呂		郎

少言商武大上何弓平中枚後長
 玄梧森若井野得場削木西谷森田
 平圓守到逸成父虎列者矩彦
 市治中分策結能也吊臣姓真太